

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H30 入学 現 6年生	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	全国 (4月)
	68.3	67.0	50.1	65.0
	(1.04)	(0.99)	(1.00)	(1.07)
	R5 正答率の全国比	1.00		1.04

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○現6年生

- ・国語・算数共に全国とほぼ同程度の正答率であった。また、無回答率が低く、途中であきらめることなく最後まで回答しようとしていくことができていた。
- ・国語では、話の内容の中心をとらえることや、複数の資料から必要なことを読み取って考えをまとめることに課題が見られた。
- ・算数では、知識・技能に関する問題は正答率が高いが、記述式の問題で無回答率が増え、自分の考えを表現することに苦手意識を持つ児童がいる。
- ・意識調査では、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対して、全国76.5%に比べ88.9%の児童が楽しいとこたえ、学び合いや話し合い活動の良さを感じ取っているものと思われる。読書については、好きな児童は81.5%と多いが、文章を読むことに慣れたり、習慣化したりすることが大切になるものと思われる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「めあて」と「まとめ」、「振り返り」を設定した基本的な学習の流れを大切に、児童にとって見通しのある分かりやすい授業を行うことで、児童が主体的に学習に取り組むような授業を実践する。
- ・1人1台学習用端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実践した授業改善を行っていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・誤答が多い過去の問題に取り組む機会を定期的にとり、問題文の読み取り方や条件に応じた記述の仕方に慣れさせる。
- ・定期的に本の紹介をして読書の意欲を高めたり、本を読む機会をより多く設定し文章を読むことに慣れさせたりする。